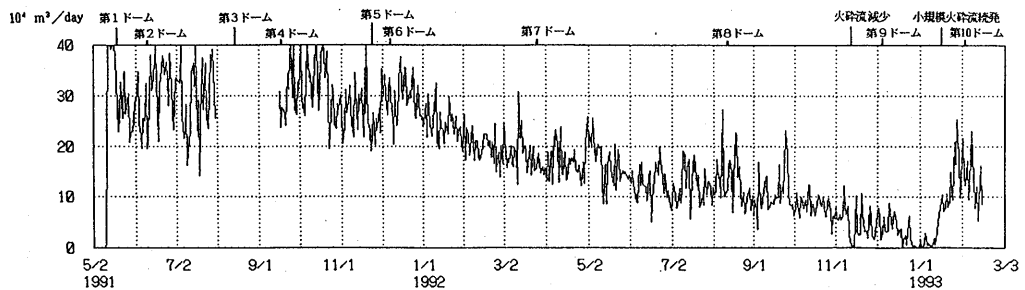


雲仙火山における日別溶岩噴出量の推定

(1991. 5~1993. 2)*

九州大学理学部附属島原地震火山観測所
東京大学地震研究所

雲仙火山山頂部に展開した傾斜計の火口方向の成分には、1991年5月11日以降、周期1~2時間前後の顕著な傾斜振動が記録されている。これが地下浅所の溶岩の動きを反映するものと解釈して、その振幅の大きさや回数から、溶岩の日別噴出量を推定¹⁾したものが第1図である。計算によれば、その量は1992年を通じて徐々に減少してきたが、1993年1月13日頃より明瞭な形で増加に転じ、第5溶岩ドームの部分的隆起や第10溶岩ドームの出現へつながった。



第1図 1日あたりの溶岩噴出量の変化, FG1観測点(普賢岳A点)の傾斜振動のようすから推定。
Fig. 1 Temporal change in daily effusion rate of lava inferred from tilt oscillation at FG1 station.

参考文献

- 1) 山科健一郎・井上義弘・清水 洋・松尾紉道(1992): 雲仙火山の長周期傾斜振動と溶岩の噴出, 地震学会講演予稿集, 1992年秋季, 239